

## 地方創生事業好事例紹介

# じゃぱにうむ

じゃぱにうむレビュー 第4回

## デジタルソリューションとオウンドメディアで人と社会のワクワクの 創出を目指す Thinking & Innovation Company

### 能登印刷株式会社

能登印刷株式会社

所在地：石川県金沢市武蔵町7番10号

代表者：代表取締役 能登 健太郎

従業員数：176名（2020年6月現在）

### 印刷会社がEC運営をまるごと代行!?

能登印刷株式会社のホームページを開くと、いきなり「EC運営まるごと代行サービス miicha.」というスライダーが画面いっぱいに現れる。スライダーの2枚目の「組版」、3枚目の「高品位印刷」がその後が続くというのが興味深い。

商品の製造・販売を行う企業が個別にネット販売を行う場合、始めるまでの手続きや商品の登録・販売後の事務処理など作業は思ったより煩雑で、販売開始からネットショップの維持にかかるコストも小さくない。この解決策として、能登印刷EC事業部が手掛けるこの「miicha」というEC運営代行サービスは、出品希望企業を募り一括して代行業務を行い、商品の販売金額に合わせた収益をあげていく、という新たなビジネスモデルを提示している。しかも出品先のECモールは、合算して国内ネット販売

市場の約80%を占めるamazon.co.jp、楽天市場、Yahoo!ショッピングの3モールというから驚きだ。それぞれのモールに設置されたmiichaショップで商品の出品・販売を代行している。

この代行サービスでは、「商品登録・ページ作成」「お客様のお問い合わせ対応」「受注管理・納品書作成」「サンクス・出荷周知メール」「クレーム・返品対応」、そして「在庫数量管理」までを一括して代行し、出品希望企業が行うのは、商品が売れた時の「商品発送」のみとしている。

出品希望企業が独自に3モールに新規で出店した場合の年間費用は、販売手数料を除いた掲載費用だけでも360,000円。これにお客様対応や事務処理費用のほか、ネット販売の専任スタッフをおいた場合の人員費などを加えると相当なコストが必要となるが、「miicha」を利用すれば、初年度の初期登録費用を払えば、年間36,000円から始められる。後は商品が売れた時の販売手数料を支払えばいい。「miicha」は既に10年以上の実績があり、地元の企業を中心にこれまでに250社以上が利用しているという。

### 地域経済を活性化するオウンドメディア事業

「EC運営まるごと代行サービス miicha.」は、能登印刷が掲げる4つの事業領域のうち、デジタルソリューション事業に区分けされるが、このデジタルソリューション事業と並んで特筆すべきは、オウン

ネット販売代行サービス「miicha」



ドメディア事業であらう。

能登印刷は、Webユーザー月間67,000人以上、Facebookフォロワー17,800人を抱える地域コミュニティポータルサイトを運営している。そのサイトが「いいじ金沢」。「いいじ」とは、「いいね」「うらやましいね」といった意味をもつ金沢弁で、ワクワクするようなお得情報や誰かにしゃべりたくなるようなまちなネタを広く発信することで地域経済・文化を盛り上げていくことを狙って運営されている。



「いいじ金沢」

毎日5件の新規コンテンツを発信。全体で既に6,000件以上の豊富なコンテンツが、「イベント」「暮らし」「食品」「雑貨」「自然」「健康」「歴史」「趣味」「温泉」「アイデア商品」「自治体」などといった80あまりのトレンドワードごとに掲載されている。ユーザーの男女比は女性54%、男性46%で25歳から54歳の消費意欲の高いターゲット層に直接リーチをすることで、スピーディーかつ効果的な集客が行えるメディアとして地域の企業・店舗から評価されているという。

能登印刷は、この「いいじ金沢」をフックに、戦略的な地域経済活性化事業に取り組んでいる。それが、「いいじ金沢」×商店街活性化事業だ。

このコミュニティポータルサイトに集まってくる情報を有機的に活用し、金沢市内にある商店街の魅力を、商店街の店主という「人」を主役に紹介する商店街オリジナルマガジンを制作するビジネスを展開している。しかもマガジンだけにとどまらず、PR、Web制作から動画制作、買い物用エコバッグ、うちわなどの商店街オリジナルグッズなど商店街の

活性化を応援する企画を次々に提案。同時に、ポイントカード、チラシ、ポスター、パンフレットなど、いわゆる印刷物を発注した店舗や企業などの情報は無料で「いいじ金沢」に掲載し、集客PRを行うとしている。自社運営のオウンドメディアをうまく活用し、印刷物を「作って終わり」ではなく、顧客のセールスプロモーションのニーズまでも満足させるという戦略的な仕掛けが見てとれる。

また、オウンドメディアによる地域支援の取り組みとしては、隔月刊の子育て支援情報誌「はっぴーママ」は、これまでに82号の発行実績がある。更に、地域就職情報誌「Be Connect with」の発行に注目したい。石川県内の優良企業30社について仕事の内容はもちろん、その企業のミッション、企業文化、社風といった「無形価値」を訴求し、連動する「Be Connect with WEB」によって動画やQRコードを駆使して理解度を高めてい



地域就職情報誌「Be Connect with」

る。就活生とその親をターゲットにしたこの情報誌は、毎年6月に北陸3県の16大学、石川県の高校、専門学校など32校に計12,000部が配布されており、過去2回の配布では、「実際の採用に結び付いた」「コロナ禍での企業PRに役立った」などのコメントが寄せられたという。

代表取締役の能登健太郎は、「自社の強みを、モノづくりとともにメディアコンテンツ産業として、お客様の課題解決のための、『思いを繋ぐ』コトづくりに進化させていきたい」と述べているが、これらの取り組みは、正にそれを実践したものだと言えるだろう。

今後も能登印刷の事業展開から目が離せない。